

## 主 題：感謝の人生3

## 聖書箇所：ローマ人への手紙 12章1-2節

ローマ人への手紙12章1節、2節をお開きください。「1:1 そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。:2 この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」

「兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。」と、ここにはパウロのクリスチャンたちへの奨励が記されていました。パウロは「お願いします。」と言いました。それは、ただ、彼の願いを述べたのではなくて、読者たちが、クリスチャンたちがみな、その様に行動を始めるようにと願って勧告を与えたのです。パウロは「イエス・キリストを信じる一人ひとりが自らのからだを、そして、自分のすべてをささげて主を崇めること」を勧めました。そして、このような生き方のその動機は「主なる神への感謝」です。主があなたを贖うために、救うために示してくださったあわれみに対する感謝です。主なる神を見上げて、自分が救われるために為されたそのあわれみのみわざを覚えるときに、このような感謝が、主が望んでおられる生き方、主が喜ばれる生き方を生み出すのです。まさに、これは、神の創造の目的に沿った生き方を実践するということになります。

パウロはこのように私たちに教えました。主が為してくださったその救いのみわざをしっかりと覚えて、そして、それを覚えるときに、あなたは主への感謝をもって神が喜ばれる生き方を実践していくことが出来ます。これはパウロが私たちに教えるようとしていたことです。今日、暫く皆さんと一っしょに考えたいことは、主なる神があなたや私に対してあわれみを示してくださった。では、主があわれみを示された動機はいったい何だったのかということです。なぜ、神は私たちにこのようなあわれみを示してくださったのでしょうか？父なる神が、ご自分の御子イエスをこの地上に人として、しかも、十字架で殺すために送られた、その動機はいったい何だったのでしょうか？子なる神主イエスが、ご自分を卑しくし、十字架に自ら進んで架かって行かれた、この動機はいったい何だったのでしょうか？主なる神の救いのみわざ、あわれみのみわざのその動機はいったい何だったのでしょうか？なぜ、神はこのように私たちのために為さったのでしょうか？

それは、例えば、私たちの主に対する善行が原因なののでしょうか？私たちの行なった慈善のわざがその原因なののでしょうか？私たちの行った親切のわざが、私たちの性格の良さが、その原因なののでしょうか？そうでないことは明らかです。なぜなら、いったい、私たちのうちのだれが、主の関心を引くような、また、主の心を動かすような善行を行なうことが出来るのでしょうか？祝福を与えようとか、祝福を与えたいと主に思わせるような、善行を行なうことができる人が、いったい、どこにいらっしゃるのでしょうか？主がお喜びなるような善行、主が望んでおられるような善行を行なうことが出来る人は、いったい、どこにいらっしゃるのでしょうか？そんな人はどこにもいません。主の前に喜ばれること、主が望んでいらっしゃることを完璧に行うことが出来る人は、どこにもいないのです。

先ほどの質問に戻ります。どうして、主なる神がこんな私たちのために罪の赦し、救いを備えてくださったのでしょうか？しかも、神である主イエス・キリストのいのちというとても高価な犠牲をもって、神はなぜ、こんなことをなさったのでしょうか？その動機は何ですか？それは、主なる神のご性質によるのです。つまり、主はあわれみ深い神なのです。主はあわれみ深いお方なのです。聖書が教える神はそのような神です。私たちが信じた神はあわれみ深い神なのです。みことばはそのことを教えます。

Ⅱ歴代誌30:9に「あなたがたが主に立ち返るなら、あなたがたの兄弟や子たちは、彼らを取りこにした人々のあわれみを受け、この地に帰って来るでしょう。あなたがたの神、主は、情け深く、あわれみ深い方であり、もし、あなたがたが主に立ち返るなら、あなたがたから御顔をそむけるようなことは決してなさいません。」とあります。助けを求めたら助けてくださる神だと言うのです。救いを求めたら救いを与えてくださる神だと言うのです。詩篇78:38でも「しかし、あわれみ深い神は、彼らの咎を赦して、滅ぼさず、幾度も怒りを押え、憤りのすべてをかき立てられはしなかった。」、詩篇103:8「主は、あわれみ深く、情け深い。怒るのにおそく、恵み豊かである。」、同じ詩篇116:5「主は情け深く、正しい。まことに、私たちの神はあわれみ深い。」、新約聖書エペソ2:4-5にはこのように書かれています。「しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、:5 罪過の中に死んでいたこの私たちがキリストとともに生かし、——あなたがたが救われたのは、ただ恵みによるのです。——」

私たちの神は、あわれみ深い神です。それゆえに、神は私たちの罪深さを知った上で、このようなあわれみを示してくださったと言うのです。

・主に対する私たちの生き方の動機は—— 主のあわれみへの感謝です。

・人に対する主の救いのみわざの動機は—— 神のあわれみ、ご自身のご性質なのです。

この主のあわれみが、どうしようもない罪人である私たちに及んだのです。愛される資格の全くない私たちのために、赦される価値が全くない私たちのために、主は赦しをもたらしてくださったのです。そして、この神が成してくださったあわれみのみわざは、私たちの理解も想像もはるかに超えたものです。なぜなら、あわれみの対象であるあなたや私、私たち罪人はどこから見ても主のあわれみをいただく資格のない者です。主があわれみを示す価値の全くない存在です。私たちの理解を超えた神のあわれみ、このことを私たちが知るためには、先ず、そのあわれみの対象である私たちのこと、罪人のこと、それをよく知らなければいけません。今からしばらくの間、私たちはこれまで学んで来たローマ人への手紙の中から、主に対する私たちの罪について学んでいきます。特に、八つの罪を見て行きます。

あなたがこのような罪を主に対して犯していたと聖書は教えます。だれかのことではなくてあなたのことです。これから見て行くみことばは、まさに、あなたを映し出した鏡のようなものです。そして、もう一つ言うなら、神はこのようにあなたをご覧になっているということです。これがあなたの本当の姿だからです。どのような姿が主の目に映っていたのでしょうか？八つのことを見て行きましょう。

☆主に対する私たちの八つの罪について

### 1. 神を拒む : 真理よりも不義を選択 1 : 18 - 20

「:18 というのは、不義をもって真理をはばんでいる人々のあらゆる不敬虔と不正に対して、神の怒りが天から啓示されているからです。:19 なぜなら、神について知りうることは、彼らに明らかであるからです。それは神が明らかにされたのです。:20 神の、目に見えない本性、すなわち神の永遠の力と神性は、世界の創造された時からこのかた、被造物によって知られ、はっきりと認められるのであって、彼らに弁解の余地はないのです。」、真理である神のみことばを拒み、却って、神が忌み嫌われる汚れを選択していたということです。1 : 28に「また、彼らが神を知ろうとしたがらないので、」と記されていました。よく、検査をし、その結果、それを承認すること、それがこの「知る」ということばの意味です。それは私たちがすでに学んだ通りです。人々は神がいることを知っているのです。しかし、それでいながら、その創造主なる真の神を信じることを良いことであると認めようとしません。ですから、神がいることを分かっているが、自らの意志でその神に背を向ける決心をしたのです。その様な選択をしたのです。「私には、神は必要ではありません。」と、そのような選択をした者であったと言うのです。

### 2. 神の栄光を辱める : 神の栄光を傷つける 1 : 21 - 23

「:21 というのは、彼らは、神を知っていながら、その神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その無知な心は暗くなったからです。:22 彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、:23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。」、「神を神としてあがめず」と書かれています。私たちが造られた目的は、この神の栄光を現わすためでした。神のすばらしさを人々の前で明らかにするためでした。そのためには、私たちがこの神を心から信じ、この方を信頼し、この方に従い、この方を誉め称えることです。それによって私たちの神を世に証していくこととなります。しかし、すでに見てきたように、人々はその選択をしませんでした。創造主なる神を信じることもしない、その方を信頼することもしない、その方に従っていくこともない、その方を誉め称えることもしないのです。こうして、神の栄光を現わすために造られた者が、神の栄光を汚す者となったのです。それが証拠に、私たちは神が忌み嫌うこと、神が憎まれていることを選択し、それを喜んで自ら進んで行なう者となったのです。神の栄光を現わす目的で造られた者が、神の栄光を汚す者として生まれ生きてきたのです。

### 3. 神に感謝をしない : 感謝もせず 1 : 21

「感謝もせず、」とあります。皆さん、あなたが今日生きていることもすべて神の恵みです。からだは痛いかもしれない、記憶は鈍っていくかもしれない、体力は衰えていくかもしれない。でも、こうしてこの日が神によって与えられたのです。今日、神があなたを奪っても良かった、あなたのいのちをお取りになっても良かったのです。でも、神はあなたにそのいのちを与えてくださり、この日をくださったのです。朝起きてから、神は私たちに食するものを与えてくださった、すべて神の恵みです。私たちはその恵みをいただいている者として、その神を心から誉め称えているかどうかです。かつての私たちはそのようなことはしていません。「神さま、ありがとう」なんて私たちは言わなかったのです。問題は今、私たちクリスチャンがそのようにしているか考えなければいけません。少なくともパウロが教えることは「生まれながらの私たちは例外なくみな、創造主なる神、そして、私たちに日々恵みを注い

でくださる神に感謝をしていなかった。そのような者であった」ということです。

#### 4. 偶像崇拝 : 真の神ではなく偶像を造り偶像を崇拝する 1:22-23

私たちは偶像崇拝を行っていたというのです。この1章22節と23節に「彼らは、自分では知者であると言いながら、愚かな者となり、:23 不滅の神の御栄えを、滅ぶべき人間や、鳥、獣、はうもののかたちに似た物と代えてしまいました。」、「代えてしまいました。」、「交換した」というのです。本来、崇拝を受けるべき神を人間と同じ被造物、また、人間が作り出したものと交換したと言うのです。私たちをお造りになった神を私たちが心から崇めるときに、その神の栄光が現わされます。そのようにしない選択をしただけではなく、私たちは神の前に大きな罪を犯したのです。神がいることを知っています。そこで私たちは自分にとって都合の良い神を選択しようとしたのです。そのような神が存在しないと、そういう神を造り出そうとまでして、自分に都合の良い神を崇拝する者となりました。

まさに、私たちが手を合わせて来た存在は、私たちと同じ死を迎える人間であったり、鳥であったり、獣であったり、這うもの、そのようなものを私たちは神として崇拝して来たのです。私たちはそのような偶像崇拝に関して、何も疑って来ませんでした。先祖からそのように言われてきたし、私たちは何も疑わずに、しかし、それが創造主なる神の前にどれ程大きな罪であるのかを知らずに、自ら進んでそのようにやって来たのです。

今、幾つかの事を見て来ましたが、このように私たちは神の栄光を傷つけ、神の栄光を汚して来ました。このような選択をし、このような歩みを行なって来たゆえに、私たちは大変な結果を自分自身の内に招いたのです。そのことがこの1章に記されていました。

**その結果** : 罪の深みにはまってい

1:24「それゆえ、神は、彼らをその心の欲望のままに汚れに引き渡され、」、神が御手を差し伸べているのに人間がその御手を全く無視して、神を無視して、好き勝手に「自分の心の欲望のまま」に生きるという選択をして、そのように生きているゆえに、神は「あなたの望むままに」と言われます。その結果、人間はどんどん悪へと深入りしていくのです。悪のスパイラルのように、どんどん悪くなっていきます。個人だけでなく社会全体が悪くなっていきます。自分の心が満たされるのではないか、自分の好きなように生きれば、自由に生きることが出来れば、私はきっと楽しい人生を過ごせるに違いない、きっと満足する生活を送ることが出来るに違いないと、みなそう信じてそのように生きて来ました。でも、私たちは分かっています、そこには何もないことが…。しかし、神を拒んだ者たちは自分の心を何とか満たそうとして、自分の思い通りの生活をしたのです。

**その結果** : 大変な問題を背負い込むことになる

罪の深みへとはまってい、そこには願っている満足はありません。そこにあるのは「虚しさ」です。何のために自分は生きて来たのだろうか?…と。幸せを求めているのにそこに幸せはない。満足を求めているのにそこに満足はない。却って、そこには苦しみや悲しみや絶望が付きまとっている。これも神のあわれみです。私たちがその中であって、自分の好きなように生きても、そこに自分の望んだものがなかったことに気付いて、神に立ち返ろうとするのですが、人間はその中でも神に立ち返ろうとはしないのです。

**その結果** : 「互いにそのからだをはずかしめるようになりました。」

罪の中へどんどん深入りしていきます。からだも神の栄光を現わすために造られました。ところが、そのからだをもって罪を選択する者となりました。性も神がお造りになった聖いものです。ところが、性犯罪、また、性に関する問題がこの社会に溢れています。結婚していなくても性的関係を結ぶことが全然問題ではない。また、未成年が関係する性犯罪はもう私たちの周りに溢れています。最近では、同性愛者の結婚が認められたことがニュースで流れました。社会全体がそのような人々を受け入れようとしています。しかし、私たちはこのように聖書を見たときに、彼らはそんなふう生まれついたのでありません。その生き方を彼らを選択したのです。彼らがいつまで経っても神に立ち返ろうとしないがゆえに、彼らは自分の好きなことをして自分を満たそうとするがゆえに、どんどん罪の深みにはまって、彼らは神が創造された目的とは全く違う同性愛という選択をするのです。恐ろしいことは、今の社会がそれらを容認するだけでなく、これらのことは聖書が罪だと教えているにも関わらず、そのメッセージをすることさえも禁止します。そのような国が出て来ているのです。前回、アメリカで「このアメリカにおいてもそういう日が来ると思うか?」と牧師たちに聞いてみると、「間違いなくそういう日がやって来る。」と言います。

私たちは自分たちの意見を述べているのではありません。聖書が、神が言われることを見ているのです。神はそのようなことは罪だと言います。その罪は人間の誤った選択によると。なぜ、そんな選択をするのでしょうか?創造主なる神を認めようとしなから、その方を受け入れようとしなからです。

**その結果**：28節「また、彼らが神を知ろうとしがらないので、神は彼らを良くない思いに引き渡され、そのため彼らは、してはならないことをするようになりました。」

彼らはどのようなことをするようになったのでしょうか？私たちがすでに見た箇所ですから細かい説明はしませんが、29-31節に記されています。「彼らは、あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者、ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者、陰口を言う者、：30 そしる者、神を憎む者、人を人と思わぬ者、高ぶる者、大言壮語する者、悪事をたくらむ者、親に逆らう者、：31 わきまえない者、約束を破る者、情け知らずの者、慈愛のない者です。」

◎あらゆる不義と悪とむさぼりと悪意とに満ちた者

- (1) 不義：神と人に正しいことを行なうよりも、自分中心に自分さえ良ければと生きる、そのような生き方です。
- (2) 悪：自分が悪を行なうだけではなく、人々を悪に引き込んで、同じように悪を行なうようにと働くと言うのです。だから、今私たちはこの社会にあって、自分たちの子どもたちをそこらどのようにして守っていくのかということを実際に考えなければいけません。悪に引き込まうとする動きはいっぱいあります。
- (3) むさぼり：自分の利益だけを追求するのです。
- (4) 悪意：悪いことを常に考えているのです。

神に逆らい続けている者たちはこのような者へ変えられて行きます。このように悪に染まった者へと、益々変えられていくと言うのです。

◎ねたみと殺意と争いと欺きと悪だくみとでいっぱいになった者

- (5) ねたみ：自分にないものをうらやむこと。自分のものにならないと、また、自分が持っていないものについて人をねたむのです。よくご存じのように、その結果、殺人に至ることもあります。その結果、いろいろな問題が人間の間に生じてきます。そして、自分の欲しい物を得るためなら、人を欺くことも容易いことです。そこには常に悪だくみが存在するのです。すべて自分を中心に物事を見ているからです。自分さえ良ければと。
- (6) 陰口を言う者：陰で人を中傷する者たちのことです。これは噂好きな人のことです。すぐに、人の噂をだれかに伝える、ゴシップが大好きな人のことです。これも罪の結果です。
- (7) そしる者：人のことを悪く言う人、人を非難する人です。
- (8) 神を憎む者：神は自分にとって邪魔者なのです、非常に恐ろしい傲慢さです。
- (9) 人を人と思わぬ者：横柄な者です。非常に傲慢な人です。
- (10) 高ぶる者：尊大な人です。自分のことを威張って人を見下すような人です。
- (11) 大言壮語する者：これは、ほら吹き、詐欺師やペテン師です。事実以上のことをもって自分を誇るのです。
- (12) 悪事をたくらむ者：より新しい罪のスリルを味わいたい、もっと何か自分を満足させるようなこと、スリルを味わうようなことがないかと思って悪を企てている者です。
- (13) 親に逆らう者：親に従って行こうとしない、不従順な者たちです。
- (14) わきまえない者：無知な人のことです。何をすべきかを考えないで、自分のやりたいことをやっている人たちです。
- (15) 約束を破る者：信頼出来ないのです。こういう人たちは当てにならないのです。
- (16) 情け知らずの者：人への愛に欠けている人です。
- (17) 慈愛のない者：あわれみの気持ちのない人のことです。人が平等に扱われることがなかった時代は、人々にあわれみの気持ちがなかったのです。

このようにパウロが教えたことは、人が創造主なる神を信じないゆえに、そして、自分の好き勝手に生きていくという道を選択しているゆえに、益々このような者へと変えられて行くということです。このような者へとなっていく、このような者へなってきたということです。

5. 神の救いを拒む 2：1-5 (5：6)

- (1) 罪であると知っていてそれを行なっている 2：1

「他人をさばくことによって、自分自身を罪に定めています。」、つまり、人をさばいているながら、自分も同じことをやっているということです。さばくのはそれが罪だということを知っているからであって、それでいながら自分も同じことをしているとパウロは言います。

- (2) 神の恵みを拒んでいる 2：4-5

「それとも、神の慈愛があなたを悔い改めに導くことも知らないで、その豊かな慈愛と忍耐と寛容とを軽んじているのですか。：5 ところが、あなたは、かたくなさと悔い改めのない心のゆえに、御怒りの日、すなわち、神

の正しいさばきの現われる日の御怒りを自分のために積み上げているのです。」

a) 軽んじている：罪人を救おうとしておられる神の愛を、忍耐、赦しを軽蔑しているというのです。大変な罪です。あなたを救うためにご自分のひとり子イエス・キリストのいのちを犠牲にしてくださっているのに、その神の愛に対して、そして、救われるために忍耐をもって待ってくださっているその忍耐に対して、そして、神がくださるその完全な赦しを軽蔑しているのです。これがあなただと言うのです。

b) かたくなで悔い改めのない心で

主のメッセージを何度聞いてもその心を開こうとしない、主の前に立ち返ろうとしないのです。自ら意志をもって、この神のすばらしいご愛を、すばらしい救いを拒み続けていると言います。なぜですか？この神の救いを軽蔑しているからです。馬鹿にしているからです。「そんなものは私には間に合っています。必要ありません。」と。私たちは何と恐ろしい罪を神の前に犯して来たことでしょうか？

## 6. 人間の救いを受け入れている 2：17-29

この箇所には、ユダヤ人たちが重んじた律法や割礼のことが出て来ました。つまり、彼らはそのようなことを守りさえすれば救われると思ったのです。今の私たちの宗教も同じです。みな共通しています。このような良いことをすれば、結果として、報いとして、このような祝福をいただくと言うのです。それが真実なのかどうか、だれもそれを吟味しようとはしません。ユダヤ人たちもしかりでした。彼らも守れないのに、この律法を守りさえすれば…と言います。割礼を受けるといふ儀式を行ないさえすれば神は救ってくれると、そのような人間の救いというものを、彼らは信じ、そこに自分たちの永遠をおいたのです。大変な間違いです。それで彼らは満足していたのです。

今の私たちの国を見てもそうです。もし、本当に自分の永遠のことが不安で、自分の信じているものが本当に真実なのかどうか、そのようなことを真剣に考えているのなら、少なくとも、この聖書の教えているこの真理に耳を傾けるはずですが、でも、多くの人たちは「そんなことは考えなくてもいい。今日が楽しければ、今日が良ければそれで良い。」と、自分の立っているその土壌が強固なものなのか、それとも砂地でぐらついてしまうものなのか、考えようとしません。人間の救いを受け入れてそれで満足している、そのような者だと言うのです。

## 7. 汚れた存在 3：10-17

「みな汚れた存在だった」と、10節から17節までにそのことが記されています。パウロは旧約聖書のみことばを引用することによって、私たちがいかに完全に汚れていたのかということをお教えます。それはあなたの心も、あなたのことばも、あなたの行ないに至るすべてが汚れていたと、この10節から17節でパウロが教えました。

### 1) 性質：心が汚れている。あなたの心が汚れている 3：10-12

(1) 罪人：罪人であった、つまり、神の前に心が正しくなかったと言うのです。「義人はいない。ひとりもない」と、神の前に心が正しい人はどこにもいない、そんな人はひとりもない。みんな罪人である、その心が汚れていると言うのです。

(2) 霊的盲人：「悟りのある人はいない」、つまり、神の真理を理解することは出来ない、そんな者だったと言うのです。私たちは信じてから、この救いのすばらしさに気付きます。でも、それまでは何度聞いても、そのすばらしさが良く分からないのです。霊的に盲人だったからです。

(3) 傲慢：「神を求める人はいない」、つまり、神のことよりも自分のことを優先していた、そのような者だったと言います。神を喜ばせることよりも、自分を喜ばせることを考えて生きています。

(4) 真理から外れている：「すべての人が迷い出た」と12節に記されています。みんな真理から外れて真理に背を向けて、そして、間違った道を歩んでいたと。

(5) 神にとって無益な存在：「みな、ともに無益な者となった」、悲しいことです。なぜなら、神はあなたを目的をもって造ってくださったからです。神の栄光を現わす特別な存在として造られたのに、あなたがその神を忘れて、その神に背いて、自分勝手な道を歩んでいるゆえに、神にとって無益な存在になったのです。ひよっとすると、皆さんの家には無益なものがいっぱいあるかもしれません。思いつきがあるからと…。引っ越しのときは大変です。みんな捨てなければいけないからです。でも、普通に考えたら、無益なものは残しておく必要がありません。必要でない物は処分するのです。本来なら、あなたも私も例外なく、みんな神によって処分されておかしくないのです。なぜなら、無益な者だったからです。それが私たちだったとパウロは教えるのです。

(6) 悪に満ちている：「善を行なう人はいない。ひとりもない。」、私たちの心は善ではなくて、いつも悪に満ち溢れている、そのような者であった、それがあなただと言うのです。

心が完全に汚れている、神にとって全く役に立たない者であった、それがあなただと言うのです。

## 2) ことばが汚れている 3 : 13-14

「のど」「舌」「くちびる」「口」のことです。箴言12 : 18「軽率に話して人を剣で刺すような者がいる。しかし知恵のある人の舌は人をいやす。」、エペソ4 : 29「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。ただ、必要なとき、人の徳を養うのに役立つことばを話し、聞く人に恵みを与えなさい。」

(1) 汚れたことば : パウロはまず一つ目に、あなたの口からはいつも汚れたことばが出ていたと云うのです。「彼らののどは、開いた墓であり」と書かれています。墓の扉が開いていると墓の中から腐敗臭がします。臭いものです。そのような状態を言っているのです、あなたの口からは汚れたことばが絶えず出ていたと。

(2) 虚偽とごまかし : 「その舌で欺く」とあります。嘘をついたり人を欺したり、そういうことが継続されていたと云うのです。

(3) 害を与える : 「彼らのくちびるの下には、まむしの毒があり」、まむしの毒と同じように、ことばも同じような危害を周りの人々に与えることがあります。そのようなことをしていたのです。人を傷つけることなどどうでも良かったのです。

(4) 悪口と怒り : 「彼らの口は、のろいと苦さで満ちている」と、人々の中に自分の好きでない人がいるなら、その人たちの幸せを望んだりしません。逆に、彼らの不幸を望み、そして、彼らの悪口を言ったり、彼らの中傷をしたりします。苦々しい怒りが心の内にあるから、それが口を通して出て来るのです。

ことばにおいても、その墓の中に死臭が漂っているような汚れたことばで、そして、虚偽とごまかしがあり、人々に害を与え、そこには悪口と怒りが満ちている、そんな存在だったのです。「神さま、私は違います。そういう人に会ったことがあります。私は違います。」と言いますか？神はあなたの心を見ておられます。そのことばが口の上でなくても、その心をご覧になっておられます。何度も繰り返します。ここに記されているこの人の姿というのは、あなたの心を映しているのです。あなたがどんなに否定しようと、神はこのようにあなたを見ていらっしゃるのです。そして、あなたが真剣に自分の心に手を当てて、自分の心の中をご覧になるときに、ここに記されていることは自分のことであることに気付かれるでしょう。

## 3) 行ないが汚れている 3 : 15-17

(1) 彼らの足は血を流すのに速く(15節) : 非常な憎悪感から殺害が起こる、いつも争いがあると言います。そして、そこからいろんな問題が出て来ます。ときには、いのちが狙われてしまったり…。

(2) 彼らの道には破壊と悲惨がある(16節) : 人々を傷つけるようなことをしてしまうと言います。

(3) また、彼らは平和の道を知らない。(17節) : 心の平和に関心がないのです。

つまり、パウロがここで言っている人々は心が問題です。それはことばとなって現われて来ます。同時に、行ないにも現われて来ます。人をねたんでいると、それは必ず行動となって出て来ます。人に対して怒りを持っていると、それは必ず行ないとなって出て来ます。そして、いつまで経っても私たちは心が平安で満たされることに関心を持ちません。なぜなら、彼らの関心は「自分の好きなように生きていきたい」からです。私たちはそのように生きて来たと言っているのです。

汚れきった存在だったのです。何%ぐらい汚れているのでしょうか？100%です。私たちの心の中も、私たちのことばも、私たちの行ないも、すべてにおいて神の前には汚れた存在として映っています。役に立たないものを処分します。汚れものはいつまでも置いてはおきません。洗濯物でも早く洗おうとします。早くきれいにしようとしします。余りにも汚いなら早く捨てようとしします。私たちはまさに、そのような存在だったというのです。神に処分されておかしくなかったのです。それ程汚れていたというのです。

## 8. 神を恐れぬ 3 : 18

「彼らの目の前には、神に対する恐れがない。」、ここに私たちの最大の問題が記されています。神を恐れぬのです。「神の審判がやって来る」とテレビのキャスターたちは言います。様々なコメンテーターたちは、いろんな世の中の動きを見て「さばきがあるのではないか…？終わりがやって来るのではないか？」と言います。でも、だれ一人として、神の前に立ってさばかれるその「さばきの日」を恐れていません。すべてのことをご存じであり、私たちの行なったこと、私たちの考えたこと、私たちの為したすべての悪に対して、公平にさばきを下される神のことを恐れていません。

私たちは覚えなければいけないのです。イエスを信じて罪赦された者も赦されていない者も、みんな神の前に立つのです。私たち罪赦された者は神の前に立って主からご褒美をいただきます。しかし、救われていない者たちは、自らの罪の審判を受け、永遠の地獄に行くのです。ローマ5 : 6をご覧ください。「私たちがまだ弱かったとき、キリストは定められた時に、不敬虔な者のために死んでくださいました。」

## 1) 霊的に弱い存在

「私たちがまだ弱かったとき」と、このような者に神は救いの御手を伸べてくださったのです。これが私たちの神です。

## 2) 不敬虔

「不敬虔な者のために死んでくださいました。」

この6月に、私がアメリカの牧師の会議に行ったときに、非常にショッキングな話を聞きました。アメリカの非常に著名な牧師であるスウィンドル師、この牧師は多くの本をお書きになっているし、そして、大きな教会の牧会者でもありました。ダラス神学校の学長も務められた先生です。その先生がこのように言われたのです。「自分が今までに牧会した教会の、教会員の中のクリスチャンは恐らく半分だ。」と。ショッキングです。すばらしい世界的なメッセンジャーであるこの先生が牧会して来られた教会のクリスチャンは、半分いるかどうかと言うのです。聞いた時に非常なショックを受けました。そのような教会が存在するかもしれないけれども、まさか、その先生が牧会されてきた幾つかの教会はそうではないと思っていたからです。

皆さん、神に対する「恐れ」というものがありますか？今、私たちは見て来ました。私たちが生まれながらにどのような存在だったかを。どのような存在として神の目に映っていたのかを見て来ました。確かに、みことばが言うように、私たちは罪人であり神の敵です。神が喜ばれることよりも、神の敵であるサタンが喜ばれることを平気でやって来たし、そういうことを私たちは進んでやって来ました。間違いなく、私たちは神の敵です。そのような者として生まれ生きて来ました。

しかし、そのことを知った上で、神はあなたをあわれんだのです。私をあわれんでくれたのです。捨ててもよかったのです。処分しても良かったのです。しかし、神はそのようなあなたを知った上で、このような存在として神の目に映っていたあなたを救おうとされたのです。そして、父なる神は子なる神イエス・キリストをこの世に人として送り、そして、あなたのすべての罪を負わせて、彼をあなたに代わって罰したのです。主イエス・キリストは、十字架にかかるためにこの世にお見えになり、そして、あなたのすべての罪を負って、喜んで自ら進んで十字架にかかったのです。あなたのすべての罪を知った上で。私たちの神の名は「あわれみ」です。こんな神があなたに目を留めてくださったのです。こんな神があなたの心に働いてくださったのです。

もし、私たちがこのあわれみを覚えているなら、このあわれみに感謝しているのなら、この救いをいただいたことを感謝しているのなら、パウロから言われなくても「神さま、どうぞ私を使ってください！」と言いませんか？なぜなら、それこそ救われている者たちの当然の応答だからです。パウロからメッセージを聞いて「なるほど…、そのように生きなければいけないのか…」と、私たちはそうではありません。パウロのメッセージを聞かなくても、神のあわれみを覚えるときに、私たちは「主よ、私のすべてを使ってください。」と言うはずですが、それが、私たちがこの神のあわれみによって救われたことを証明するものです。

あなたの救いは本物ですか？あなたは間違いなく、この救いに与っていますか？それなら、自らの罪深さを覚え、そして、あなたや私が理解する以上に、私たちの罪深さを知っておられる神が、あわれみを示してくださって、そして、あなたを救ってくださったことを心から感謝する者として生きることです。私のような罪人のかしらをこんなにも愛して、このような救いを備えてくださって救ってくださったことを感謝しながら生きることです。

パウロが「私は福音を恥とは思いません。」と言ったその訳が分かります。自分の罪深さを知った彼は、こんな私を神が救ってくださるということを聞いた時に、その救いを信じただけでなくその救いを人々に宣べ伝えようとしたのです。ローマ1：16「私は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシヤ人にも、信じるすべての人にとって、救いを得させる神の力です。」、救われた者たち、神が救ってくださった人たちは、この神のために生きようと考え、この神に用いていただこうとし、役に立たなかった私が少しでも神のお役に立ちたいと願うし、同時に、このすばらしい救いのメッセージを伝えようとするのです。

1874年に、イギリス人のフランシス・R・ハーヴァガルはある詩を書きました。聖歌313「主よわがいのち」という曲です。讚美歌にもありますがメロディが違います。でも、ハーヴァガルが書いた歌詞は同じです。彼女は病弱でしたが、みことばを愛し、幼いころからみことばを暗唱することを心がけていました。ある時に医者から「あなたの余命は短い」と言われた時に、彼女は「もし、それが本当だったら何とすばらしいことだろう！」と、そのように言って神を称えました。42歳で彼女は召されていきます。彼女のベッドのところには、いつも読めるようにと自分の一番好きなみことばが記されてあったとあります。そのみことばは「神の御子であるイエス・キリストの血は、すべての罪から我々

を聖めてくださいます。」でした。そして、彼女はこのような詩を書きました。それは讚美歌 21 の中から引用します。(512番)

主よ、献げます、私のいのち、 あなたのために 用いてください。  
今この時も これからのちも み名をたたえて 日々過ごします。

主よ、献げます、私の手足、 みわざのために 用いてください。  
差しのべる手を 愛の手として、 平和伝える 主の足として。

主よ、献げます、私の声を。 あなたのみ名を ほめ歌います。  
この唇を よいおとずれで あふれるばかり 満たしてください。

主よ、献げます、私の愛を、 知恵も力も 宝もすべて。  
私のうちに あなたが住んで みむねのままに 用いてください。

彼女も分かっていたのです。自分がいかに汚れた罪深い存在であるのかを。そして、そんな自分を救ってくださった神のあわれみを、彼女はよく理解していたのです。そのときに彼女が出来たことは、「主よ、私のすべてをあなたにおささげします。どうぞ、あなたのために用いてください。」と言うことでした。

あなたはいかがですか？ 信仰者の皆さん。主が喜ばれる生活をしていらっしゃいますか？主が望んでおられる生き方をしていらっしゃいますか？ 私たちは今一度、どれ程私たちがこの神のあわれみを受けるのにふさわしくない存在であるのかを覚えなければいけません。処分されて当然の者です。捨てられて当然の者です。でも、主は私たちをこんなにもあわれんでくださり、このような祝福をくださった。主を称えながら生きましょう。主のすばらしさを誉め称えながら歩んで行きましょう。そして、主のすばらしいこの救いのメッセージを人々に伝えながら、主のすばらしいあわれみを人々に伝えて行きましょう。

☆考えましょう

1. 救われる前のあなたはどのような存在であったかを記してください。
2. あなたの救いのために、主は何をしてくださいましたか？
3. 主のあわれみを忘れないようにするためには、どうすれば良いと思いますか？